

オーストラリア、新進ダンス・アーティスト、初来日 日本とオーストラリアの先住民の文化芸術活動の対話の場に参加

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス フツクレイ・コミュニティ・アーツ交流事業

ナヨカ・ブンダ・ヒース Ngioka Bunda-Heath [オーストラリア]

2023年8月15日(火)ー9月11日(月)滞在



Ngioka Bunda-Heath, *Birrpai* photo by James Henry

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスでは、フツクレイ・コミュニティ・アーツとの交流事業の一環として、オーストラリア、メルボルンを拠点にコンテンポラリーダンスで活動するナヨカ・ブンダ・ヒースを招へいます。

本交流事業は日本とオーストラリアの先住民の文化芸術活動に関する理解や対話の場を創出する目的とし、両国の先住民の文化的リーダーやアーティストを招へいするアーティスト・イン・レジデンス事業です。

本年度はオーストラリアの新進気鋭のダンス・アーティスト、ナヨカ・ブンダ・ヒースが来日し、アイヌの伝統歌を歌う「マレウレウ」のメンバーであり、国内外のフェスティバルで作品を発表するアーティストのマユンキキ、アート・トランスレーターとして現代アートや舞台芸術の現場で活動する田村かのことともに東京、北海道に同時に滞在し、それぞれの土地を巡ります。

東京では、森下スタジオでナヨカ・ブンダ・ヒースの創作のアイデアや活動の理解を深めるアーティスト・トークとワークショップを開催します。先住民の文化芸術活動に関する創造的な対話や挑戦にどうぞご期待ください。

オーストラリアでの先住民への抑圧の歴史を紐解き、 今日の問題として問い直す作品を創作

滞在アーティスト、ナヨカ・ブンダ・ヒース

ナヨカ・ブンダ・ヒースはオーストラリアの先住民、Wakka Wakka、Ngugi(クイーンズランド)と Birrpai(ニュー・サウス・ウェールズ)のルーツを持ち、アボリジナル・センター・オブ・ザ・パフォーミング・アーツでディプロマを取得後、ビクトリア芸術大学でダンスを学びました。卒業後、オーストラリアを代表するダンスカンパニー、バンガラ・ダンス・シアターの研修生として青少年教育プログラムの指導に関わり、現在、先住民のダンスカンパニー、チャンキー・ムーブのコーディネーターを務めています。

自身の振付作品としては、2019年、オーストラリアでの政府当局によるアボリジニの若者の強制移住に関する家族の歴史を語るレクチャー・パフォーマンス、『Blood Quantum(血の含有率)』を発表。自身の母方の祖父母の幼少期の出来事を出発点に、3世代にわたる「生まれた世代」のトラウマとその制度の影響を描く作品として注目を集めました。また、『Blood Quantum』に次ぐ、『Birrpai』(2021年)では植民地時代にアマチュアの写真家、トーマス・ディック(1877-1927)が捉えた Birrpai の写真をもとに父方の先祖の歴史を取り上げ、メルボルンのグリーンルーム・アワードで、ダンス・ベスト・デュオ／アンサンブル賞を受賞しています。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス

— 新しい出会いや対話、ネットワークの機会を創出する —

セゾン文化財団

公益財団法人セゾン文化財団は、堤清二氏(1927-2013)の私財によって設立された助成型財団です。1987年より日本の現代演劇・舞踊の振興、およびその国際交流の促進に寄与するため、助成活動を行っています。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスは2011年からセゾン文化財団が東京・江東区の森下スタジオを拠点に展開しているアーティスト・イン・レジデンス事業で、海外の芸術家や芸術団体等との双方向の国際文化交流の活性化を目的に実施しています。

これまでに海外から約70名のアーティストやアーツ・マネジャーを招へいし、国内のアーティストや関係者との新しい出会いや対話、ネットワークの機会を創出しています。滞後に創作された作品はフェスティバル・ドートンヌ・ア・パリ(フランス)やクンステン・フェスティバル・デザール(ベルギー)などの海外有数のフェスティバルで発表されています。また、過去の滞在アーティストには2022年度の国際芸術祭「あいち2022」で作品を発表したトラジャル・ハレル(米国／ギリシャ)や横浜国際舞台芸術ミーティング2022で作品を発表したヤン・ジェン(中国)などがいます。

フツクレイ・コミュニティ・アーツ交流事業

フツクレイ・コミュニティ・アーツ交流事業は、オーストラリアのメルボルン郊外にあるコミュニティ・アーツ・センター(1974年開館)とセゾン文化財団が2021年にスタートした提携事業で、昨年度はメルボルンを代表する先住民文化のリーダーで、地元で唯一ストーリーテリングに特化している長老の一人、アンクル・ラリー・ウォルシュと、フツクレイ・コミュニティ・アーツのシニア・プロデューサー、ダン・ミッチェルを招へいました。

招へいアーティスト プロフィール

ナヨカ・ブンダ・ヒース / Ngioka Bunda-Heath

オーストラリアの先住民、Wakka Wakka、Ngugi(クイーンズランド)の母と Birrpai(ニュー・サウス・ウェールズ)の父を持つ。アボリジナル・センター・オブ・ザ・パフォーミング・アーツでディプロマを取得後、ビクトリア芸術大学でダンスを学び、学士号を取得。ダンスを専門に同大学を卒業した初の先住民の女性アーティスト。

卒業後、オーストラリアを代表するバンガラ・ダンス・シアターで青少年教育プログラム「Rekindling」の指導に関わり、現在、チャンキー・ムーブの「First Peoples Partnership」のコーディネーターを務めている。

自身の振付作品には、『Blood Quantum』(2019年)、『Birrpai』(2021年)、『Bridge』(2022年)、『Footprints』(2022年)などがある。2021年、『Birrpai』でメルボルンのグリーンルーム・アワードのダンス・ベスト・デュオ／アンサンブル賞を受賞している。



Ngioka Bunda-Heath, *Blood Quantum*
Photo: Michael Jalaru Torres

同時滞在アーティスト プロフィール

マユンキキ / MAYUNKIKI

1982年生まれ。北海道出身・在住。アイヌの伝統歌を歌う「マレウレウ」「アペトゥンベ」のメンバー。2021年よりソロ活動開始。音楽分野だけでなく国内外のアートフェスティバルに参加。アイヌ語講師、札幌国際芸術祭(SIAF)2017バンドメンバー(企画チーム)、SIAF 2020ではアイヌ文化コーディネーターをつとめる。

2018年より、自身のルーツと美意識に纏わる興味・関心からアイヌの伝統的な文身「シヌイエ」の研究を開始。現代におけるアイヌの存在を、あくまで個人としての観点から探求し、表現している。

2020年には、第22回シドニー・ビエンナーレ「NIRIN」に参加。同年、写真家の池田宏と「シヌイエ アイヌ女性の入墨を巡るプロジェクト」(北海道・白老)、2021年「シンリツ アイヌ女性のルーツを探る出発展」(北海道・札幌、CAI03)、2022年「Siknure - Let me live」(イギリス・バーミンガム、lkon gallery)を開催。



Photo: Hiroshi Ikeda

コーディネーター プロフィール

田村かのこ / Kanoko Tamura

Art Translators Collective 代表。アート翻訳レーターとして、日英の通訳・翻訳、コミュニケーションデザインなど幅広く活動。人と文化と言葉の間に立つ媒介者の視点で翻訳の可能性を探りながら、それぞれの場と内容に応じたクリエイティブな対話のあり方を提案している。非常勤講師を務める東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻では、アーティストのための英語とコミュニケーションの授業を担当。また札幌国際芸術祭 2020では、コミュニケーションデザインディレクターとして、展覧会と観客をつなぐメディアーションを実践した。NPO 法人芸術公社所属。



Photo: Flavio-Karrer

事業概要

事業名	セゾン・アーティスト・イン・レジデンス フツクレイ・コミュニティ・アーツ交流事業
招へいアーティスト	ナヨカ・ブンダ・ヒース Ngioka Bunda-Heath [オーストラリア]
同時滞在アーティスト	マユンキキ Mayunkiki [日本]
コーディネーター	田村かのこ Kanoko Tamura [日本]
滞在期間	2023年8月15日(火)―9月11日(月)
滞在场所	森下スタジオ(東京都江東区森下3-5-6) 天神山アートスタジオ(北海道札幌市豊平区平岸2条17丁目1-80)
主催	公益財団法人セゾン文化財団
助成	令和5年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」

関連イベント情報

●アーティスト・トーク: コンテンポラリーダンスを脱植民地化する

8月17日(木)19:00~20:30 森下スタジオ

ナヨカ・ブンダ・ヒースの創作のアイデアや活動の理解を深めるアーティスト・トークを開催。ブンダ・ヒースの代表作『Blood Quantum』、『Birrpai』、『Bridge』を事例に、ブンダ・ヒースの創作のアイデアやプロセスを明らかにします。ゲストに同時滞在アーティストのマユンキキが登壇予定。

●ワークショップ: コンテンポラリーって何? コンテンポラリーダンスのオープンワークショップ

8月28日(月)19:00~21:00 森下スタジオ

ダンスの基礎的なワークとしてフロアワークやトラベリング、インプロヴィゼーションや、ダンサーに身体と心の自由を探求させる速いテンポのワークを実践するワークショップを開催。ダンスのトレーニングを受けているダンサーを対象。

詳細は当財団のウェブサイトで発表いたします。

<https://www.saison.or.jp/air>

本事業に関してまして、貴誌・貴媒体にてご紹介いただきますと幸いです。

掲載用写真の貸出、ご質問等がございましたら、下記の問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ

公益財団法人セゾン文化財団

〒104-0031 東京都中央区京橋3-12-7 京橋山本ビル4階

電話:03(3535)5566 [受付時間:月~金・10:00~17:00]

担当者:稲村太郎

担当者メールアドレス:residency@saison.or.jp